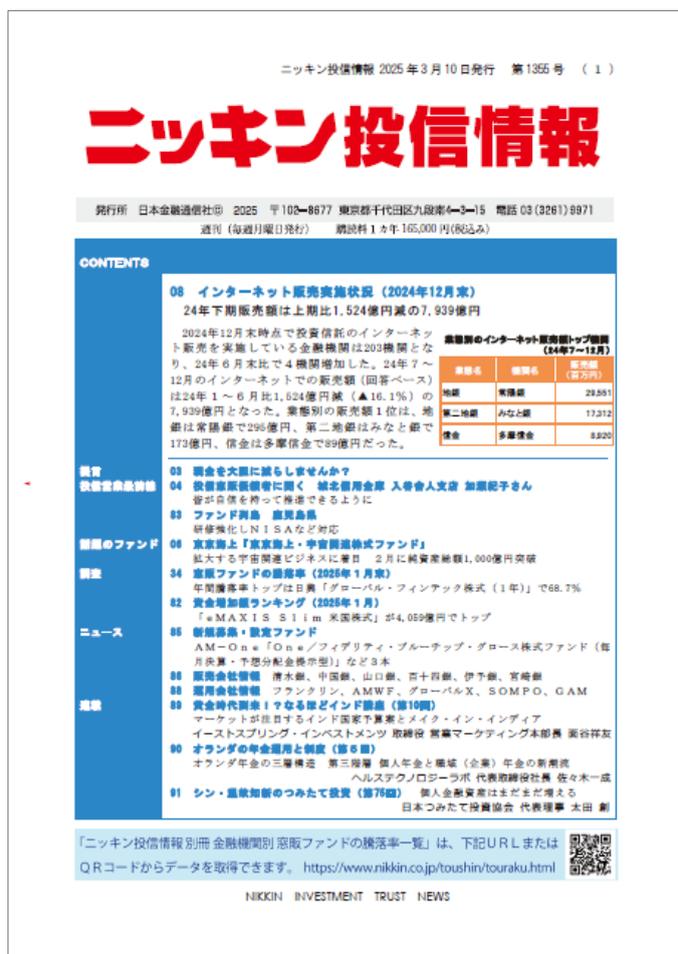


# ニッキン投信情報の連載『黄金時代到来！？なるほどインド講座』の第10弾が公開されました！

ニッキン投信情報（3月10日号）にて、弊社取締役 営業マーケティング本部長の面谷 祥友による連載『黄金時代到来！？なるほどインド講座』の第10弾が公開されました。

本連載は計12回（毎月1回）を予定しています。

第10回目となる本紙では“マーケットが注目するインド国家予算案とメイク・イン・インド”について寄稿させて頂きました。



**第10弾**

本連載記事については  
2ページ目をご覧ください。

### <当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシアランス社とは関係がありません。

**イーストスプリング・インベストメンツ株式会社**

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

250307(03)

## 連載



連載第1回(2024年6月10日号掲載)では、「メイク・イン・インド(インドでものづくりを)」政策と、グローバルなサプライチェーンのシフトについて触れました。今回は「マーケットが注目するインド国家予算案とメイク・イン・インド」について見ていきます。

### インド経済の未来を占う国家予算案発表

インドの国家予算案の発表は毎年2月1日に行われ、財務大臣が国会で次年度の政府の収入と支出の計画を示します。この発表はインドの経済政策の方向性を示す重要なもので、国内外の投資家や企業からも非常に注目されています。インドの国家予算案は単なる財政計画の発表にとどまらず、政府の経済政策や社会政策の優先順位を示す重要な機会です。例えば、インフラ投資、教育、医療、雇用、農業支援など、さまざまな分野への予算配分が明らかにされます。また、税制改革や補助金政策なども発表されるため、国民生活や企業活動に直接影響を与える内容が含まれています。

25年2月1日に発表された25年度の国家予算案では、前年度に引き続きインフラ整備投資の他、農村部開発、個人所得税減税等の景気支援と共に、財政赤字削減も示され、持続的な成長へ向けたバランスのとれた内容となりました。

### 株式市場と国家予算案

国家予算案の発表はインドの株式市場にも影響を与えます。予算案の内容によっては株価が大きく変動することがあります。例えば、企業に対する減税措置やインフラ投資の拡大が発表されると、関連する企業の株価上昇が期待されます。一方で、財政赤字の拡大や増税が発表されると、市場はネガティブに反応することがあります。投資家にとっても重要な投資判断の材料となり、予算案の内容を分析し、どのセクターが恩恵を受けるかを見極めることで、投資戦略に役立てることができます。特に、インフラ

関連株や消費関連株は、予算案の内容に影響を受けることが多くあります。

### メイク・イン・インド政策との連携

インドの国家予算案とモディ政権のメイク・イン・インド政策は、インドの経済成長と産業振興において密接な関わりがあります。メイク・イン・インド政策は14年にナレンドラ・モディ首相が発表した製造業振興策で、インドを世界の製造業および研究開発のハブとすることを目標としています。国家予算案はメイク・イン・インド政策の実現に向け、重要な財源を提供します。例えば、税制改革や補助金政策なども製造業の競争力を高めるための重要な手段となり、インフラへの投資が促進されることで、国内製造業の強化が期待できます。予算案のインフラ整備等を中心とした資本支出の推移を見ると、モディ政権発足以降、その伸びが顕著であり、同政権のインフラ整備促進への高いコミットを示しています。

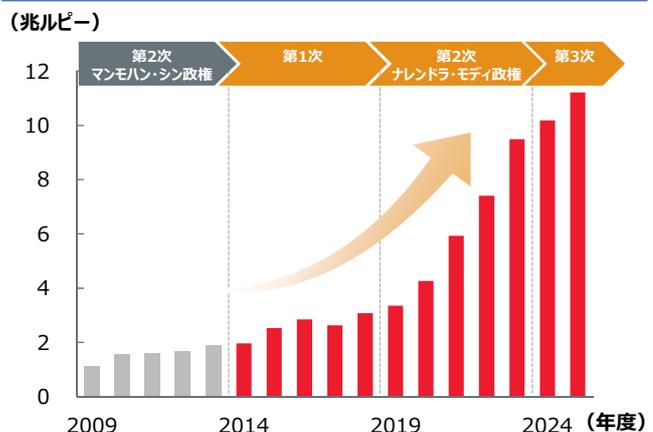
インドの国家予算案とメイク・イン・インド政策は、相互に補完し合いながら、インドの経済成長と産業振興を推進するための重要な柱となっています。これらの政策が成功すれば、インドは世界の製造業および研究開発のハブとしての地位を確立し、持続可能な経済成長を実現することが期待されます。国家予算案とメイク・イン・インド政策は、インドの未来を形作る鍵となるのです。

(執筆：イーストスプリング・インベストメンツ

取締役 営業マーケティング本部長 面谷祥友)

図表 インド国家予算における資本支出額の推移

(2009~2025年度\*)



出所：インド準備銀行、インド財務省のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。  
\*2024年度は修正予算、2025年度は予算案。  
※インドの会計年度は4月から翌年3月まで。例えば2025年度は2025年4月~2026年3月。  
本稿は執筆時点での情報に基づく筆者の個人的な見解であり、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の公式見解ではありません。